



(平成 年 月 日)

博物館学習シート (茶の文化)

中学生用：お茶の学習

このシートは、博物館の展示のうち歴史の学習と関係の深い資料について、みなさんが自分で調べるときに使います。疑問に思ったことや、よくわからないことは博物館の人に聞いたり、帰ってから各自で調べて見ましょう。鉛筆と下敷きを用意しましょう。(ペンやマジックなどは持ち込んではいけません。)

1. 中国から日本に抹茶の製茶法・喫茶法が伝えられたのには、一人の僧侶が大きくかかわっていました。それはだれでしょう。またそれはいつごろの時代だったでしょう。
(右の写真はその僧侶の木像ですが、展示室にはありません)

だれ

いつごろ



2. 左の写真のような茶屋は、いつごろの時代にどのような場所に多くみられましたか。展示してある絵と説明を見て答えましょう。

いつごろ

どのような場所

3. 抹茶の茶室と煎茶の茶室のようすが展示されています。それぞれの特徴や違いなどを、部屋に飾られている道具や部屋の様子などから比較してみましょう。

抹茶の茶室

煎茶の茶室



ちょっと一息

栄西禅師の伝えた「抹茶」

「抹茶」とは、摘んだお茶の葉を蒸して発酵をとめ、揉まずに乾燥させたものを粉にひいてつくるお茶です。飲むときには大ぶりの茶碗に茶を入れ、それを湯にといて飲みます。

このお茶は鎌倉時代の初め（今から約800年前）中国に留学し臨済宗の教えを伝えた栄西禅師が、南宋時代のお茶の作り方・飲み方を持ち帰ったことから、日本で作られ飲まはじめたと考えられています。中国から帰った栄西は、最初九州背振山などに茶を植え、その後、京都高山寺の明恵上人に茶の種を分け与えて、それが全国の茶産地に広まったといわれます。

また、栄西はお茶の効能をまとめた『喫茶養生記』という書物をあらかし、抹茶とともに鎌倉幕府3代将軍源実朝に献上しました。このとき将軍実朝は体調を悪くしていましたが、抹茶を飲んだところたちどころに回復したので、人間の体にとってお茶が非常に良い飲み物だということが理解されたそうです。その後、抹茶は、鎌倉幕府の御家人や禅宗の寺院を中心に全国に広まり、のちに「茶の湯（茶道）文化」として日本独自の文化となったのです。

隠元禅師の伝えた「煎茶」

「煎茶」とは、生葉を釜で炒ったり蒸して発酵をとめ、揉みながら乾燥させてつくるお茶です。飲むときには、茶葉を急須に入れ、それに湯を注いで蒸らし出汁を茶碗に注ぎ分けて飲みます。

このお茶は江戸時代の初め（今から約350年前）中国から黄檗宗（臨済宗の一派）を伝えた隠元禅師を中心とする中国僧たちが、明時代のお茶の作り方・飲み方を持ってきて、それが日本に広まったものと考えられています。当初伝えられた明の「煎茶」は、釜で炒って発酵をとめて作る「釜炒り茶」で、それを急須で煮出して飲むものだったと思われます。それが日本で改良を加えられ、今日のように蒸して発酵をとめて作り、飲むときには急須に湯を注いで飲む方法に変わりました。

ちなみに、隠元禅師たちは煎茶を飲んでいる情景を「雪中煮茶」という漢詩に残しています。これは隠元とその弟子たちが雪の日に集まり、景色を楽しみながら、雪を煮てそれで煎茶を飲み、各自がその時の心もちを漢詩に表わしたものです。ここからは、当時の風流な喫茶の様子が見て取れます。



見学を終えて

- 博物館の見学をしてあなたは、どの展示物が一番印象に残りましたか。
- それはどの時代ですか ・印象に残った理由は何ですか。
- 見学をしていて、疑問に思ったことはありませんでしたか。 **ある** **ない**
- それはどのようなことですか

中学校 年 組 名前